



【前期後半がはじまって】

長い夏休みが終わり、8月の終わりから前期後半が始まりました。今年は激しい暑さや自然災害等で、厳しい夏休みでした。大きな事件事故は、学校に届いていませんが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。

気候の良くなる秋が始まります。学習、スポーツ、行事に、充実した学校生活になるようみんなで力を合わせましょう。

【夏に、何に、どう挑んだか。】

夏休み前の集会で、何か目標を決め、チャレンジしてほしいことを伝えました。今年の夏は、どのような成果が得られたでしょうか。自分の取り組んだこと、頑張ったことを、ぜひ先生に伝えたり話したりしてほしいと思います。

【小中合同防災避難訓練・集団下校】

暑さが心配される中、小中合同の避難訓練を実施しました。小学校の頃の方面別下校をベースに、中学生がリードして、広域避難場所である高炉台公園から、各方面に下校し、通学路の安全確認もしながら実施しました。地域の方や保護者の方もおいでいただき、様子を見守り、一緒に下校していただきました。

【生徒会役員改選立会演説会 (on-line) 選挙】

3年生から2年生1年生にバトンが引き継がれる時期が来ました。事前に選挙活動で門立ちをして、自分の名前と顔を覚えてもらえるように、短期間でずが集中して取り組みました。

立会演説会は、暑さのために、オンラインによる遠隔形式での演説会になりました。どの候補者も、応援者も、思いの伝わる内容で、しっかりと話すことができていました。その姿に驚かされました。

きっと、これから先の中央中学校のことを考え、前向きな取り組みをしてもらえると思います。全員で応援していきましょう。

【ロボットプログラミング教室 (2年)】

プログラミング学習の一環として実施しました。ロボットを考えたように動かすための、指示のプログラムを考えました。どのグループも手際よく、作成したプログラムに沿って、確実に動作していました。話す言葉や声の高さ、速さまで、設定するなど、正しい指示のもと動いていました。

これから先の生徒たちの生きる世界は、ロボットやコンピュータ、AIといったものと共存し、その仕組みを理解して、使いこなせることが求められます。

【学校評価アンケートについて】

学校評価アンケートを実施しました。学校に日常が戻ってくるにしたがって、「もっと、充実した生活になってほしい」「学習の頑張りが必要」「学校生活がもっと楽しくなってほしい」というような願いが強まっているのか、昨年の7月に比べて、生徒も保護者も多くの評価項目で、大きな差はありませんが、下降気味でした。この意見をもとに後期の取り組みなどを工夫していきたいと考えています。

学校生活は、先生が何かを準備するだけではできません。生徒の皆さんの前向きな姿勢が、より充実した学校生活をつくっていきます。



【教育相談 (いじめに関する相談等)】

いじめを中心とした教育相談が実施されました。各担任に困り事や相談をしたと思います。中央中学校の先生は、学級や学年にかかわらず、すべての先生が全員のことを考えています。今回の相談で出せなかったことがあれば、自分の話しやすい先生に、勇気をもって相談してみましょう。いろいろな解決のヒントが得られると思います。

【第2回定期考査】

定期考査が実施されました。7、8、9月の学習で学んだことがどの程度定着しているかが、確認できたかと思います。どの分野が身につくか、どの分野が理解できていないのか、この後の確認と取り組みが大事です。中学校では、学習する内容が多く、基本どんどん前に進んでいきます。課題を克服するには、地道な家庭学習が必要です。

学校では、「ひまわり学習塾」で、毎週2回、1時間基礎固めを進めている人もいます。「賢者の机」で質問し、課題に取り組んでいる人もいます。

【これまでの足跡・今後の予定】

- 8月28日(月) 集会、小中合同防災避難訓練・集団下校
- 8月29日(火) 課題テスト
- 9月11~19日(月) 教育相談 (いじめに関する相談等)
- 9月12日(火) 第3回学校運営協議会 (目指す生徒像)
- 9月12日(火) 生徒会役員改選立会演説会 (on-line) 選挙
- 9月15日(金) ロボットプログラミング教室 (2年)
- 9月21・22日(木・金) 第2回定期考査 (6教科)
- 9月25~27日(月~水) 午後 クラスマッチ (バレー)
3年⇒2年⇒1年⇒2年(10/3)
- 10月11日(水) 合唱祭 (響ホール) (午後) 弁当持参
- 10月13日(金) 前期終業式
- 10月16日(月) 後期始業式 (オンライン)
- 10月16日(月) ~19日学校開放週間 (午前中)
- 10月16日(月) ~19日前期懇談会 (三者懇談)
- 10月25・26日(水、木) 職場体験 (2年生)
- 10月27日(金) 生徒会役員交代式
- 10月31日(火) 高校説明会【各高校が来校し説明】(3年生)



【☆特集1☆ 学習とその評価について】

≪学校での学習内容≫

・現在の中学校では、教科の学習内容を基にしなが、ら、「資質・能力」を伸ばすことを目標に、次の三つの能力を身に付けることができるように考えて授業が構成されています。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」です。これらの力を、習得させ、育成し、涵養することを日々の授業で繰り返すとともに、日々、学習評価しています。

≪学習評価のいろいろ≫

評価には、いくつかの評価があり、それぞれに意味があります。

【診断的評価】 今持っている力を測るためのテスト、試技等

(事前調査、事前テスト(小学校の学習や中学校のこれまでの関連事項)、スキルテスト、試作など)

自分の今の力を知ることができる。先生が個人や学級集団の状況を把握し、教え方や進め方を考える。

【形成的評価】 一定の学習を終えて、知識や技能が形成できているか測るテストや試技等

(章末テスト、単元末テスト、豆テスト、実技テスト、中間発表会など)

自分の力がどの程度ついているかを測ることができる。自分の進ちょく具合や課題、修正点を見付ける。先生が個々の能力を分析し、個別指導や授業の進め方を修正する。

【総括的評価】 ある期間や内容のまとまりを終えて、知識や技能が定着しているか測るテストや試技等

(定期考査、実力テスト、標準検査、測定会、試合、ゲーム、発表会、鑑賞会等)

自分の力がどの程度定着しているかを測ることができる。自分の取り組み方を振り返り、課題を発見したり、次の目標を立てたりする。先生が指導の方法を振り返り、次からの指導に生かす。

いわゆる5教科と技能教科では、学習の習得状況の測り方が異なる場合もありますが、これまで多くの場合、ペーパーテストによる記憶中心の知識のテストや、できる・できないと言った技能中心の評価が行われてきました。しかし、人には短期的に覚えることが得意な人とそうでない人がいます。また、ワーキングメモリといったものが影響する部分も多くあります。あるいは、学校で習っていないけど以前から習い事として取り組み、できる人もいます。

これらのことから、学校では、学校で学習したこと、先生が教えた内容を通して、資質・能力を身に付けさせ、その習得状況の評価することが主な役割となります。

≪定期考査の意味≫

こうしてみると定期考査は、記憶や知識の側面に大きく偏った総括的評価になります。

以前の学校の成績(評定)は、「相対評価」と言い、学校の学年ごとに、各教科で順番をつけ、上位から割合を決めて5段階評定がついていました。「5」7%、「4」24%、「3」38%、「2」24%、「1」7%と程度です。100人の生徒であると、概ね%と同じ生徒がその成績をとっていました。そのために、どの教科も100点満点で一斉のテストを実施し、順番をつけて評定を出していました。

「相対評価」は、全体に対する位置を表し、統計的に大きな母数であると正規分布に近づき、概ね意味のある数字に近づいていきます。なので、全国模試や県内模試などの業者テストの際には、いまだに偏差値、スコアとして示されます。

しかし、この評価の方法は学校の教育の中ではないとして、2002年以降は、目標とする学習到達度にどれだけ近づけたかの「到達度」をもって、評価する「絶対評価」に変わりました。

この相対評価がなじまない部分はどのような部分かという、学習集団の質が高い場合、よく理解できていても「1」がついてしまう場合や質が今一つであっても「5」がつくようなことが起こるという部分です。学習が理解できていなくても、順位による数値がついてしまうのです。また、小さな集団は、いつも順位が固定化され、努力や伸びが反映されないという部分などが課題でした。

「絶対評価」も集団の質が高まると、当然、先生方の教える内容も高度化していきます。簡単には「5」にならないように、評価の基準を上げたりして評価を進めます。でも、先生方は事前に「何を」「どこまで」「どのようになる」とよいのかを示し、皆さんに努力を求め、その資質や能力伸ばし、発揮してもらおうとしています。

昨年度から本校では、定期考査に頼りすぎない評価を進めています。日頃の授業中での発表や取り組み、学習ノートやプリントのまとめ、自分の考えの記述など、細やかに生徒一人一人の状況を見るように心がけています。特に今年は、定期考査のない月には、単元末テスト期間として、短い期間の中での、形成的評価や提出課題による習得状況を見るようにしています。

中央中学校は、1年生49人、2年生89人、3年生65人の少ない人数です。定期考査の順位を動機づけにしていた人もいかもしれませんが、一方でいつも似たような順番で、自信を失う人も少なからずいました。学校に足が向かなくなる原因の一つに学習の不振があります。すぐに結果が出なくても、記憶が苦手でも、いろいろな側面から先生方は皆さんを見えています。

中学生の時期に大切なことは、今の自分の能力を把握し、それを伸ばそうと「学び」続ける力をつけていくことです。